

道産食品 ネットで競り

いずみHD 消費者向けに来月開設

生鮮卸のいずみホールディングス(HD、札幌)は、消費者がインターネット上で野菜や魚介類など道産生鮮品を落札できるサイト「ENZOBIIN(エンズビン)」を9月1日に開設する。中間流通を省くことで、消費者が鮮度の高い産品を割安に購入でき、生産者の収益向上にもつながる。事業開始から5年で年商100億円を目指す。

道産の水産物や農畜産物を道内外に販売する同社は、子会社の日本卸売市場(札幌)が昨夏から、産地で撮影した生産者と生鮮品の動画を自社サイトで配信し、道外企業向けにネット上で競りを行っている。「エンズビン」はこのシステムを個人向け

に活用したもので、当面は道内各地の漁師や農家ら30～50人の生産者が自慢の生鮮品をネット上に出品する予定だ。

商品は最も高い価格で入札した人が購入できる仕組みで、商品は現地から発送するなどして、水産物なら水揚げ当日か翌日に送ることもできる。売上高の一部が日本卸売市場などの収益となる。

サイトはネット事業を手がけるリアルワールド(東京)の子会社READO(札幌)と共同運営する。いずみHDの泉卓真社長は「消費者のメリットだけでなく、生産者の所得向上や販路拡大につながる事業に育てたい」と話している。